

佐世保市立相浦中学校

所在地 佐世保市川下町277番地

校長名 森寄 眞悟

生徒数 425名 学級数 15

教育目標 自ら学び、心豊かで、たくましい生徒の育成

校訓 今日も、明るく、誠実に



1 目的

本校生徒に実践してほしい事は、次の二点である。第1は、校訓「今日も、明るく、誠実に」の実践である。この言葉は、たとえ辛いことがあった次の日であっても、明るく前向きに、笑顔で真面目に真心を持って信頼できる人へ成長してほしいとの願いがある。第2は、学校教育目標「自ら学び、心豊かで、たくましい生徒なろう」の実践である。中学時代の目標の1つとして自立がある。自分から何かをやろうと（チャレンジ）することが大切である。その為には保護者や先生から言われて学習するのではなく自ら学ぶ習慣を作ること。学校では授業以外にも多様な体験活動があり、その活動を通して友との絆を大切に、他者を思いやる豊かな心を育み、逞しい体と精神力を身に付けることである。

2 本校のモットー

「 凡事徹底 」 ～偉大なる凡人たれ～

「 自律自助 」 ～気づき 考え 行動する～



3 本年度のテーマ

- ◎ 豊かな心を育む教育活動の実践
- ◎ 美しい学校づくりの実践
- ◎ 生徒自らが生き方を考え、その力を身につけさせる教育活動の実践

4 実践内容

◎相浦文化が育む自ら学ぶ心たくましい生徒の育成

(1) 凡事徹底の文化

本校の優れている点は、全校生徒が落ち着いた学校生活を送り、大きな生徒指導上の問題がないことである。このことは、毎年、4月当初にモットーを掲げ全職員で共通理解のもと生徒達に徹底した指導を実践してきた成果である。今年度も「凡事徹底～偉大なる凡人たれ～」、「自律自助～気づき 考え 行動する～」を掲げ、当たり前の事を当たり前にできるために、徹底して指導して定着させる取り組みを実践した。本年度も「授業前の黙想」を継続するとともに、「無言清掃」では清掃場所ごとに集合し、生徒会が放送をかけて黙想を呼びかけ、清掃活動の充実が図ることができた。また、全校生徒が「挨拶・返事・時間厳守・整理整頓」で日本一になることを目指し日々の学校生活を意欲的に送ることができた。



平素より、身近な生活・学習の場に視点を置くことで、美化に対する意識の向上をねらいとし、校舎外の環境美化に力をいれることとした。今年度15年目になるこの取組は、花の種類は変化していくものの、学校管理員と専門委員会の活動継続により、地域にも知れ渡るようになった。また、登校時に毎朝、各生徒がゴミ拾いを行うことが本校生徒に良き伝統として根付いている。生徒達の美化意識を高揚させることが美しい学校づくりの一助となっている。



さらに、毎朝、曜日ごとに言葉を決め、8時15分より全校生徒が唱和する「朝礼5訓」の取り組みが7年目を迎え、職員・生徒ともに定着した活動となり、意識の高揚に繋げることができた。社会性の育成として「挨拶・返事・時間を守る・整理整頓」を徹底的に指導し身につけさせることは、変化の激しい未来を生き抜く生徒に必要な不可欠であり、不易の教育実践である。今後も生徒達が常に向上心を持ち学校生活を送ることで、「凡事徹底」の文化を良き本校の伝統として継承していきたい。

(2) ほめる文化

本校は平成25年度～26年度の2年間、佐世保市教育委員会の指定を受け授業改善に取り組んだ。その研究の成果を生かし、全職員が共通理解のもと、授業改善と学力向上目指し「ほめ、認め、引き出す」授業展開を実践した。ほめる習慣はプラスの発想の習慣であり、ほめられたことで喜びは大きく自信に繋がり、同じ事でも何度もほめるということを経験指導の下、教育の眼目「相手の魂に火をつけ全人格で導く」を掲げ、各教師が授業の中で実践する「相浦中学びのスタイル」を定着させることで自己肯定感を育成し学力向上を目指している。



また、4年前から実施している全校生徒の授業アンケート結果を各教科担任が確認することで個々の生徒の実態を把握した授業展開を実践したことも一助に繋がっている。本校生徒は「凡事徹底の文化」が浸透しており、真剣に授業に臨む姿勢が身につけてきている。今後もこれまでの取り組みを定期的に検証し、繰り返し実践することで確実に学力も向上するものと確信している。

(3) つながる文化

様々なつながりが生む学校生活の充実が生徒達の生きる力の育成に直結するのである。本校は校区内に大学、短大、高校、小学校、特別支援学校がある。



今年度はコロナ禍にあり制限された中でも、できる範囲で様々な行事を行った。例年5月に実施していた1年生の野外宿泊学習も11月に延期し、ふるさと歴史発見学習も合わせて実施した。佐世保市の歴史に直接触れたり、佐世保市の自然の中で友達と協力し飯ごう炊爨をしたり活動した。

2・3年生で実施していた佐世保特別支援学校との交流も今年も実施できなかった。その代わりに2年生では、今年度開催された東京パラリンピックに合わせ、パラアスリートの方にリモートで講演を行っていただいた。3年生では、福祉事業所で働かれている方にお越しいただき、リモートで講演会を開催することができた。



また、今年も長崎県立大学、長崎短期大学や佐世保実業高等学校とも連携し、専門の先生方から直接学ぶ機会が増え

た。特に今年度は佐世保実業高等学校の特任講師の先生に2・3年それぞれにキャリア講演会が実施できた。また、いのちを見つめる強調月間には、交通事故被害者の会の方にお越しいただき体験談を聞くことができた。コロナ禍で地域行事がすべて中止となり交流ができなかったが、次年度以降、落ち着いたら実施していきたい。



(4) 部活動が盛んな文化

本校は83%の生徒が部活動に入部し、意欲的に取り組んでいる。部活動で人間性を高める事を目標とし、決して勝利至上主義になることなく全職員が常に生徒に寄り添い愛情を持って丁寧に指導に当たっている。特に、規則を守ることを重点的に指導している。



部活動での人間形成と健やかな体づくりは生徒達の成長に必要不可欠なものである。本年度もコロナ禍で各種大会等も中止・延期となる中、これまでと同様に素晴らしい活躍が見られた。市中学校体育大会では、ハンドボール(女子)が2連覇、県中総体でも準優勝し九州大会に出場した。バレーボール(女子)が準優勝、空手団体組手(女子)、バスケットボール(女子)、陸上(男子)が3位に入賞した。その後、新チームに代が変わっても勢いは継続し、各種大会で野球部が優勝したり、ハンドボール部は九州大会出場を果たした。また、今年度は、文化部の活躍も目立った。吹奏楽部は長崎県吹奏楽コンクール県北地区予選で金賞、長崎県アンサンブルコンテストで金賞と成果を収めた。美術部では、西日本読書感想画コンクール指定図書で優秀賞を獲得する生徒を輩出した。

(5) 夢を夢で終わらせない文化

これまで3年生では、例年6月に相浦・日野地区で職場体験学習を実施してきた。しかし、昨年度からコロナ禍のため職場体験学習が実施できなくなった。キャリア教育の充実を図るために、「13歳のハローワーク」の資料を購入し、職業観などを学び、今後の進路選択に向けて学んだ。2年後の職場体験学習再開を目指し、準備を進めていきたい。また、今後コロナウイルス感染状況が落ち着いたら、地域の多くの方々に本校生徒の姿を見ていただき、その良さを知っていただき、「開かれた学校づくりの推進」を前進させていきたい。



11月には1、2年生においては高等学校の先生方を招聘しての高校説明会を実施し、その内容を各高校別に情報機器を活用しまとめさせた。その内容を学級で発表することで将来の目標について、具体的に考える機会となった。今後も3年間の学びを系統的に実践していくことで、生き方を考え、夢を持たせ、夢を叶えさせる教育活動を推進していきたい。

◎パソコンの効果的

活用目指した取組

(1) 毎日パソコン
入力コンクール

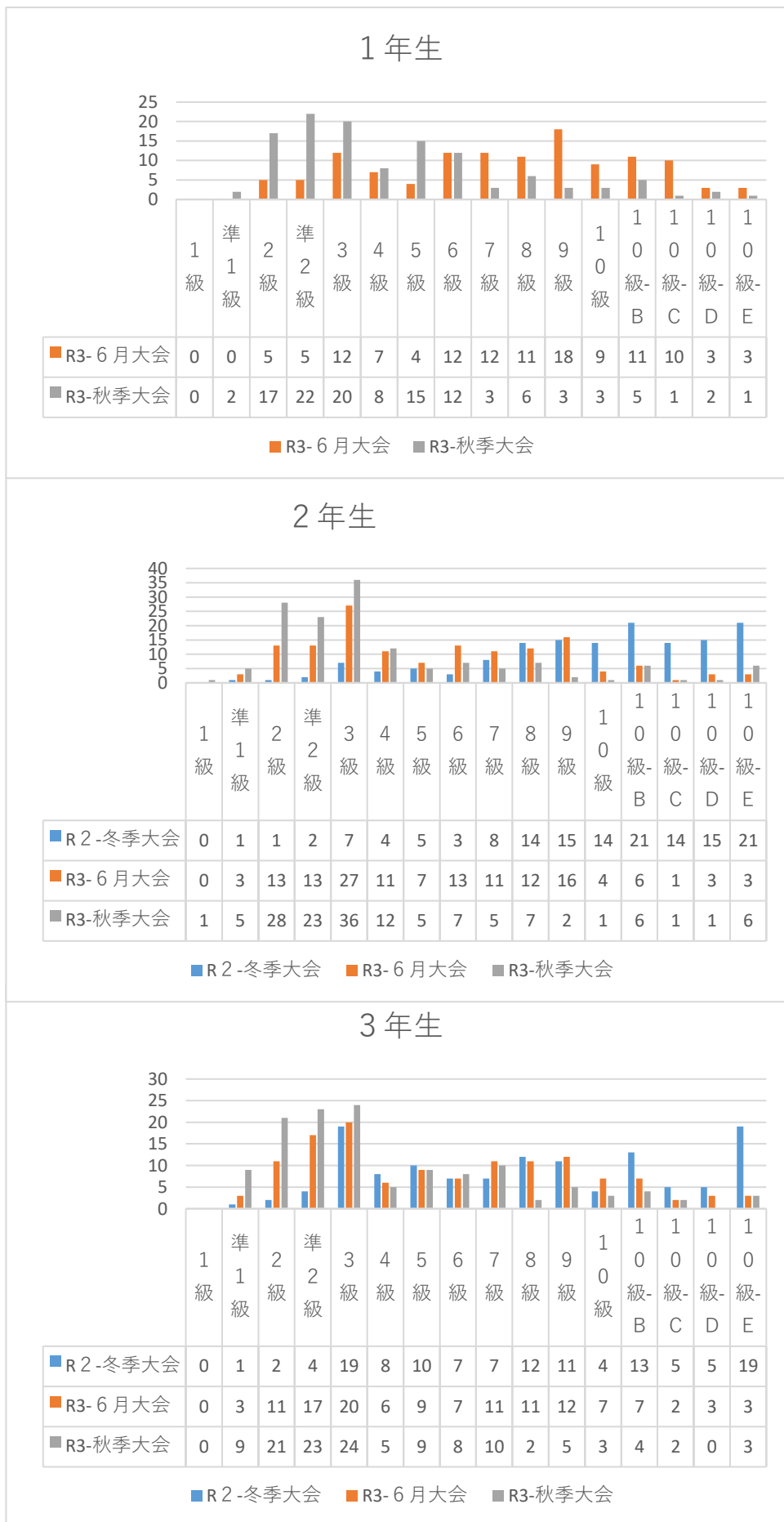
昨年度末から一人一台パソコンが本校においても導入された。

活用を高くしていくためにもタイピング技能の向上が求められる。そこで、昨年度末から技術・家庭科の授業開始に継続してタイピング練習を行ってきた。各学年ともに継続して取組むことにより、個々のタイピング技能が大幅に向上した。特に生徒の目標として掲げている3級(5分間に200文字)には、1年生が50%、2年生では65%、3年生では60%の生徒が到達した。

(3年生は授業時数が少ないために練習時間が短かったためと考えられる。)

この結果、各授業においても入力時間が短縮されスムーズに行うことができるとともに、生徒の自信にもつなげることができた。

学校別の総得点でも全国4位に入賞することができた。



(2) 遠隔授業の準備

本校は、校区に高島地区があり、これまで通学する船が不通の場合、高島分校でプリント学習などを行ってきた。昨年度から、リモートによる授業の準備を進めてきた。今年度は、船の欠航による登校ができない状況がなかったので実施は0である。

(3) パソコンを活用した授業

この1年間、パソコンが導入され、授業、行事など多くの場面でICTの効果的な活用方法を検証してきた。

【教科】

国語科：スプレッドシートを用いて、考えなどを共有させる。振り返りシート。

社会科：インターネットを用いて情報の検索。教材の提示。

数学科：早く課題が終わった生徒へeライブラリーを活用する。問題をクラスルームに掲示し、ノートに解かせる。立体などの確認。

理科：デジタル教科書の活用。植物の検索。

英語科：英語の発音の確認。

音楽科：音楽の鑑賞。イヤホンで個々に聞く。

美術科：資料の提示。課題の検索。作品の共有。

保健体育科：体育実技の様子を動画で撮影し確認する。

技術・家庭科：制御学習。タイピング学習。教材の提示。

【行事】

オンラインによる講演会：パラアスリートによる講演会、キャリア講演会（2回）、福祉講演会

オンラインによる生徒会活動：生徒総会、各専門委員会よりの報告、生徒会引継式のオンライン上映

平和集会・人権集会：アンケート機能を使い放送を使って実施

野外宿泊学習、ふるさと歴史発見学習：デジタルしおり。生活の振り返りをフォームで実施し、班長会で検証する。

5 成果

- ① 豊かな心を育む教育活動の実践では、本年度のモットー「凡事徹底」～偉大なる凡人たれ～を全校生徒に浸透させ、学校全体で取り組んできた。また、全校で学校教育目標等を唱和する「朝礼五訓」を実施し、有意義な朝のスタートを実践した。その結果、生徒達の自覚も高まり、新たな良き伝統を築きあげている。さらに、全国・県・市の学力調査結果から、学力の向上が図れた学年や教科があることが窺える。これは、全職員共通理解のもと実践した「相浦中学びのスタイル」や市が推進するめあてとまとめを中心とする授業作りの実践、授業アンケートを実施することで教職員の意識の変容が窺えたことによるものが大きく影響している。
- ② 美しい学校づくりの実践では、地域からも好評価を得ている玄関前の花壇の整備など、良き伝統に継続して取り組むことで、生徒に責任感と愛校心を育成できたことは大きな成果である。また、清掃前の黙想を取り入れ、「無言清掃」を実践することで生徒の更なる意識の高揚に繋げることができた。
- ③ 生徒自らが生き方を考え、その力を身に付けさせる教育活動の実践では、生徒たちに体験活動を中心とした教育活動を取り入れることで、将来の生き方を考える良い機会となっている。また、地域の恵まれた環境を活用した学習（長崎短期大学の福祉学習、長崎県立大学のグローバル社会についての講演、佐世保実業高等学校からのキャリア講演会、佐世保特別支援学校との交流、ふるさと歴史発見学習など）を実践することで郷土愛と自然を愛する心を育成することができた。更に、多数の文化的・体育的な地域行事への参加を通して、地域の方々に本校生徒の姿を見せ、その良さを理解していただくことで、「開かれた学校づくりの推進」を大きく前進させたこと、地域と共に生徒が自ら考え決定し実践する力を身につけたことは、新学習指導要領が求める「社会に開かれた教育課程」の実践に結びつく大きな成果である。
- ④ GIGAスクール構想を見据え、生徒一人一人がパソコンを活用できる状況を作るために、タイピング練習を行ってきた。日々の練習においても、各自で目標を持ち取り組むことができて

いる。全学年で、継続してきた成果が大きく表れてきた。また、遠隔授業ができる準備も整った。今後、休校になった場合や船舶の欠航時、または不登校、別室登校への学力保障に繋がることは大きな成果である。

6 課題

- ① 今後の本校の大きな課題はさらなる学力向上である。基礎基本の定着が不十分な生徒がいる。この課題解決に向けて校長指導の下、取り組みの検証を定期的に行い、生徒の実態に即した「学びのスタイル」の実践と規律ある学校づくりをさらに充実させ、「チーム相浦」で授業改善を推進していくことが課題である。また、来年からの学習指導要領完全実施に向け、「主体的で、対話的で、深い学び」となるよう、全職員で一層の研修を積んでいく必要がある。
- ② 熱い教師集団が全力で生徒を育てる姿勢を持つこと。そして、悩み事には親身になって対応し、生き抜く力をつけさせ、愛情にあふれる教師文化を構築し定着させることが重要である。
- ③ コロナ禍で多くの行事が延期、中止となったり、規模の縮小という形での実施となった。3学期制に向けて子どもたちのためにできることを取り組んで行く必要がある。
- ④ 今後生徒がパソコンを活用できる状態になって、進学してくることが考えられる。パソコンを効果的に授業に活用できるようにする教師のスキルアップが不可欠である。さらに校内研修の充実を図っていかなければならない。また、生徒用のパソコンは家庭に持ち帰らせる取り組みは、各家庭の環境（WI-FI）が課題になりつつある。